

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成19年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2774501171
法人名	社会福祉法人 常茂恵会
事業所名	グループホーム・レポート
所在地	泉佐野市長滝3735-1 (電話) 072-490-3100
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 12月 15日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 10月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	13人	常勤	6人, 非常勤 7人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,750円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	①(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	263円	昼食 367円
	夕食	420円	おやつ 0円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19年 11月 26日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80.5歳	最低	71歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	樽谷医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表者は「人権と福祉」をテーマとして地域福祉の一翼を担いながら、「すべての人の人権を守る」ことを理念として社会福祉法人を設立、グループホーム・レポートを開設しました。同時に建物の1階部分に地域密着型有料老人ホームを開設、隣接してデイサービスセンター、ヘルパーステーション、ケアプランセンターを運営しています。ホーム周辺には田畑が広がり、居室から自然を感じることができます。職員と利用者が家族のようにふれあい、職員の子どもたちも利用者の孫のように親しくしている状況も見られます。このホームではかかりつけ医師との連携がよく、同法人看護師の日常的な支援が得られるなどの特徴があります。また、この2年間、運営推進会議を2ヶ月毎に継続して開催し、民生委員等の協力を得ながらホームのサービス向上に努めています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回評価での改善課題は9項目ありました。この1年間で改善した項目は①家庭的で安らぎが感じられる生活空間づくり②家族へ月1回の写真入お便りの送付の2項目です。改善については職員会議で討議をしていますが、内容を記録に残しておらず詳細が確認できませんでした。前回の外部評価結果については職員に回覧するなど課題を共有する努力をしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価調査の日程や意義については管理者が職員に口頭で説明していますが、その内容を記録に残していません。自己評価表の作成については管理者が職員の意見を聞きまとめ、さらに職員に回覧をして確認しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成18年度から2ヶ月に1回、年6回の会議開催が定着しています。最近の主な討議内容は①ホーム内での転倒防止について②救急外来受診時の(認知症)接遇の問題について③地域との連携促進についてです。対策など今後の取り組みについては①利用者の介護度が高くなってきているので夜間対策を含めて配慮する、家族に状況を伝え課題を共有しておく。②利用者の主治医と連携を密にして救急搬送についても相談しながら進める。③地域福祉委員会への参加、社協ボランティア活動への参加などが提案されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回は写真入りのお便りを作成し、家族へ送付しています。また、家族が来られたら、口頭で利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告しています。ホーム玄関に意見箱を設置して、寄せられた意見を反映するように努めています。運営推進会議に家族の参加を要請し、出された意見は反映するようにしていますが、家族の参加が少なく会議に参加していただくことが今後の課題になっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児との交流、高校生の一泊ボランティアを受け入れるなどの取り組みをしています。レポートのお祭りには近所からの参加があります。近所のお店に買い物に行き世間話をする、職員の子どもたちが遊びに来て家族的な交流がある、運営推進会議で地域交流促進をテーマにするなど努力はしていますが、近隣に家が少なく活発な交流は難しい状況です。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人権と福祉」をテーマとして、地域福祉の一翼を担い、「すべての人の人権を守る」ことを理念として邁進したいという考えを基本に、ホームでの暮らしを支援しています。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関から入るとすぐ目に付く場所に理念を掲示しています。管理者は職員に理念の説明を行い日常の支援の中で理念を実践するように努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	保育所との交流、高校生の一泊ボランティアを受け入れるなどの取り組みをしています。ラポートのお祭りには近所からの参加があります。近所のお店に買い物に行き世間話をする時間を設けるなどの工夫をしています。地域との連携を積極的に進めて行こうと努力をしていますが、近隣に家が少なく活発な交流は難しい状況です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は前回の外部評価結果を職員に口頭で説明して改善に着手していますが、記録を残しておらず内容の詳細が確認できません。外部評価結果は職員に回覧するなどの取り組みをしています。自己評価票の作成については職員の意見を聞き、管理者が作成しています。	○	外部評価結果についての検討内容を記録に残し、改善に向けての課題を職員間で共有することが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施している実績があります。地域包括支援センター職員、民生委員の参加を得ています。会議では「地域との連携の促進について」や「救急時の医療連携について」など、ホームの課題を討議しています。家族への参加要請はしていますが、当初の会議への参加のみで継続的な参加はありません。運営推進会議の開催要項は作成していません。	○	運営推進会議に家族の参加を得ること、運営推進会議の開催要項を作成することが求められます。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か困ったことなどがあれば市へ出向き、担当者に相談して助言を得ています。助言を活かしてサービス向上に努めています。今後は同市内にあるグループホームの交流会等が開催できるように、市に働きかけ、援助を要請するなどの取り組みを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回は写真入りのお便りを作成し、家族へ送付しています。また、家族が来られたら、口頭で利用者の暮らしぶりや健康状態などを報告しています。利用者の小口金銭管理は行っていません。買い物など必要経費はホームで立て替えて、請求書を送付しています。購入した領収書は家族へ送付して、控えをホームに残しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置して、寄せられた意見を反映するように努めています。運営推進会議で出された家族の意見を尊重し反映していますが、家族が参加されたのは当初のみです。種々の理由で継続した参加が得られていません。出席できる家族さんから順に推進会議に出ていただくような取り組みを期待します。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内職員の異動は最小限にしています。一部職員の交代については利用者への影響を少なくするように、引継ぎ期間を設け経験者を配置するなど十分な配慮をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の外部研修記録があります。内部研修では外部研修の報告を随時行っていますが、一部記録を除いては実施した記録を残していません。また、外部研修の記録については職員に回覧するなどの共有化を図っていません。	○	1年間に6回以上の研修を行うことが求められます。6回のうち2回以上は外部研修の受講し、研修内容については「認知症の対応」「感染症予防」「応急手当」を含むことが望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者連絡会は行われていませんが、外部研修等で知り合った他ホームの職員との自主的な交流はあります。ホームから同業者との交流会や研修会開催についての働きかけは行っていません。全国レベル、大阪府下対象のネットワークには加入していません。	○	全国レベル、大阪府下対象のネットワークへの加入が求められます。地域の同業者や関連業者等との学習・交流の場を持つような取り組みが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や入居時の面接などには本人と家族と一緒に来られるように勧めていますが、利用者や家族の都合で突然入居される場合もあります。デイサービス利用者が入居される場合は職員や入居されている方と顔見知りでもあり、馴染みやすい状況があります。入居前の見学や面接ができない場合にはスタッフが家庭訪問をすることもあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	地元で生活してこられた利用者が多く、職員は郷土料理や味付けなど教えてもらうことも多くあります。長寿の祝いや誕生会など、それぞれの利用者に手作りのケーキを用意して喜び支えあう関係を大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話やふれあいの中で利用者の意向を聴取する、確認するなど希望を引き出す努力をしています。しかし、希望を出されず、食堂で座ったまま居眠りをしている利用者が数人おられました。このような場合には短時間でも居室でお昼寝をしていただくか、外出で体を動かしていただくように、一人ひとりの体調を考慮しながら支援を試みてはいかがでしょうか。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居直後はアセスメントを行い、利用者や家族の意見を反映した介護計画書を作成しています。しかし、その後の介護計画書は全く作成していません。また、当初の介護計画書には職員間で共有しているというサインがありません。	○	介護計画書作成についてはサービス担当者会議を開き、職員間の討議を行うと同時に本人や家族意見欄には必ず聴取した意見を記入することが求められます。また介護計画書は本人や家族に説明をして了承されたというサイン（押印）をもらうことが求められます。さらに、職員間で共有し、職員全員が目を通し確認したというサイン（押印）が求められます。カンファレンス記録には討論の内容を詳細に残すことが望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書の定期的な見直しを全く行っていません。必要時には随時の見直しを行っていますが、介護計画書の作成には至っていないため、家族への説明も行っていません。	○	介護計画書を定期的に見直し、作成することが求められます。作成するたびにアセスメントを行い、本人や家族の意見を聴取して反映すること、実施後はモニタリングを行うことが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者には同法人運営のデイサービスへの参加をしていただくことがあり、参加時には地域からの参加者との交流もできます。利用者の様態の急変時には同法人内の看護師が駆けつけ応急処置などの対応をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がそれぞれの希望する、かかりつけ医療機関で、引き続き医療が受けられるように支援をしています。受診の際は家族が同伴されるようにしていますが、家族の都合が付かない場合や必要時には受診に付き添い、適切な医療が受けられるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や退居に当たっての条件を運営規定に明記し家族の了解を得ています。重度化した場合や終末期の対応については本人や家族の希望を尊重し、最後までホームで支援する方針を明確にしています。また終末期の看取りをした事例があります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重した対応をするよう努めています。利用者の記録等の保管は慎重にしています。 同法人では個人情報保護に関する規定が定められており、ホーム職員採用時の契約書には個人情報保護を義務付ける文面があり、職員に主旨を徹底しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日をどのように過ごすかは利用者の希望で決まります。入浴をする、居間で過ごす、居室で過ごすなど、それぞれの思いが尊重されています。しかし、希望を出されないまま食堂のテーブルで居眠りをするなど長時間同じ姿勢で座り続けておられる利用者を数人見つけました。希望を表現できない利用者については積極的に支援する方向で、介護計画にも反映するように検討されてはいかがでしょうか。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同法人の管理栄養士が作成した献立を使いながら、利用者の意見を反映するために献立をアレンジして食事作りをしています。利用者はお好み焼きをしたり、巻き寿司を手伝ったり、味見をしたり、できる範囲で食事作りに参加しています。また、手作りのおやつやケーキ作りにも参加して楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決まわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴は日課になっています。希望者は日曜日も含めて週7日入浴することができます。入浴時間は希望にあわせて、ゆったりと入浴できるように配慮しています。医師の指示で長期間入浴できていない利用者がおられますが、清潔には配慮した支援をしています。しかし、今後は医師と相談の上、シャワー浴等が可能かどうかの検討を行うなど、積極的な支援を期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入浴や散歩、ケーキづくり、好きなものを食べる、晩酌をする、パズルをするなどそれぞれに楽しみ事は違いますが、利用者の希望に添った支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	積極的に外出を希望される利用者が少ないということから、外出の頻度が少ない状況です。最近では買物にも出かける頻度が少なくなってきました。	○	利用者一人ひとりに最低週1回以上の外出支援が求められます。外気に触れ、ホーム以外の人々とふれあえる機会が持てるような支援を期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路が近く安全確保が出来ないという理由から玄関には終日鍵をかけています。	○	「鍵をかけないケア」は、どのような対応や配慮をすれば安全に行うことができるのか、ホームの課題として取り組むことが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防防災避難訓練は法人として年1回、消防署の協力を得て行っています。それ以外には職員のみで自主避難訓練を年に1回行っています。非常用食料品、水等の備蓄は行なっていません。	○	災害対策として、ホーム内に食料品、飲料水の備蓄が求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー作成は同法人所属の管理栄養士が行っています。食事摂取量は三食ともに把握し、水分摂取量は一日を通して把握し記録しています。また排泄回数との関係から水分不足を把握する視点も持っています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間を中心にくつろぐ場所を設けています。不快な音や光も無く、窓の外にはキャベツ畑などの田畑が広がり、季節感のあるホームです。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある居室環境が整えられています。利用者は室内に家族の写真やぬいぐるみ、コタツや机、イス、衣装ケース、テレビ、時計など馴染みの家具を置いて過ごされています。一部、利用者の都合で持ち込まれた家具が少なく殺風景な居室もありました。		